

執筆担当	所在地	畜種	キーワード
十勝牧場 衛生課	北海道 音更町	馬	馬インフルエンザ、防疫

十勝牧場における馬インフルエンザの防疫対応について

はじめに

令和 7 年 4 月 8 日、熊本県で国内 17 年ぶりに馬インフルエンザの発生が確認されました。その後、4 月 25 日に十勝牧場のある音更町に隣接する帯広市の帯広競馬場でばんえい競走馬 3 頭に本症の発生が確認された後、十勝管内で数例発生が確認されました。

当場は我が国で唯一、馬の育種改良を手がける牧場として、重種馬（ブルトン種・ペルシュロン種）の改良・増殖を行い、全国へ貸付、配布、精液販売を行っていることから、場内の防疫レベルを上げるなどして本疾病に対し最大限の警戒をしました。

特に、本症が発生した時期は馬の繁殖シーズン真っ最中であったことから、管内に多数存在する重種馬生産農家が当場に頻繁に出入りする時期でした。そのため、精液販売を進めながら当場への馬インフルエンザ侵入を防ぐ必要がありました。

そこで、ここでは実際に当場が行った防疫対応の一部をご紹介します。

・馬飼養管理区域への立ち入り制限

馬インフルエンザ対策期間中(帯広競馬場で馬インフルエンザ陽性(PCR)が判明した 4 月 28 日から精液販売終了の 6 月 30 日まで)、馬飼養管理区域への関係者以外の立ち入りを制限しました。

・車両消毒の徹底

来場者に車両消毒機による消毒を徹底してもらうため、当場入り口に追加の看板(以下写真)を設置し、注意を呼びかけました。



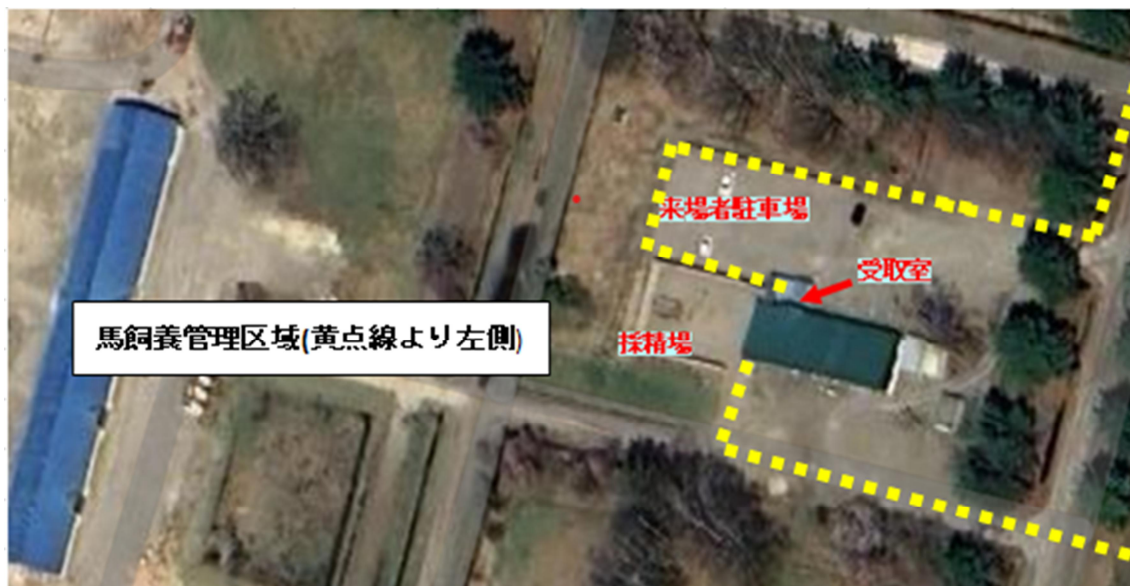
(矢印：車両消毒機)



・精液販売時の受け渡し方法の変更

当场では、毎年3~6月に馬精液の販売を行っており、そのうちの液状精液は購入希望者が牧場に直接取りに来るになっています。今年は馬インフルエンザの発生を受け、購入希望者への受け渡し方法の変更を行いました。

従来の販売方法は、購入希望者が採精場の裏の来場者駐車場まで車で来る→受取室で待機→馬飼養担当職員が直接液状精液を受け渡すようになっていました。この従来の方法だと、馬飼養担当職員と購入希望者が接触するだけでなく、購入希望者同士も接触するという問題点がありました。そこで、馬飼養担当職員と購入希望者の接触を避けるため、受け渡しのみを行う馬の飼養担当でない職員を配置、また、購入希望者同士の接触を避けるため、購入希望者は車で待機してもらうように変更しました。馬の飼養担当でない職員が、精液を受取室で馬飼養担当職員から受け取る→購入希望者の待機している車まで直接持って行くという流れで受け渡しを行うようにしました。



・馬インフルエンザワクチンの接種

馬インフルエンザの発生を受け、今年は例年(種雄馬・配布馬・ジーンバンク在来馬)より接種範囲を拡大し、1歳以上の馬全頭にワクチン接種を行いました。

おわりに

馬インフルエンザの発生は、5月8日を最後に報告されていません。しかし、アメリカやカナダなど地方病化している国もあり、これらの国と日本では馬の往来があります。また、JRA競走馬総合研究所([熊本・十勝での馬インフルエンザウイルス解析結果について - JRA 競走馬総合研究所](#))により、熊本県および北海道での流行ウイルスは北米由来のウイルスと近縁な型であったこと、熊本県と北海道のウイルスは同種であったことが判明しています。このような状況からいつ再び国内で発生するかはわかりません。当场も、今シーズンは厳重な防疫体制により場内への馬インフルエンザの侵入を防ぐことができました。来シーズン以降も、飼養する家畜を伝染性疾病から守るため、防疫対策を適切に行い、確実に業務を進めていく次第です。